

【様式 1】

申請日	2022 年 9 月 16 日
-----	-----------------

総合情報基盤センター 研究開発申請書

1. 研究開発の概要

研究開発課題名	アスリート学生を中心とした学びや学修理解度の可視化支援ツールに関する研究Ⅱ					
概 要	<p>本研究は、令和 3 年度の総合情報基盤センター研究開発において採択され、ツールの開発が実現したこと等によって一定の成果が確認された。(今回確認された具体的な効果については、以後の研究開発計画内に記載)</p> <p>本申請は、開発したツールを用いた面談の中で確認できた課題(学業成績、出席状況の可視化)を解消することによって、より汎用性及び有用性の高いツールに改修し、支援を更に加速化することを目的とする。</p>					
研究テーマ区分	<input checked="" type="checkbox"/>	① 今日的かつ将来的な情報コミュニケーションに関する課題				
	<input type="checkbox"/>	② 情報通信機器を用いた教育教材に関する課題				
	<input type="checkbox"/>	③ 情報通信機器を用いた授業方法に関する課題				
研究開発代表者	所 属	芸術学部 写真・映像メディア学科		職 位	教授／学生部長	
	氏 名	百瀬 俊哉		連絡先	内線 (5697)	
	E-mail	<a href="mailto:momo@ip.kyusan-u.ac.jp">momo@ip.kyusan-u.ac.jp</a>				
研究開発分担者 研究開発協力者	No.	分担者	協力者	所 属	職 位(学籍番号)	氏 名
	1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	学生部	学生係長	一ノ瀬 大一
	2	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	教務部	職員	植村 浩太郎
	3	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	総合情報基盤センター	教育研究係長	武谷 信吾
	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
5	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
研究開発経費	申請予算(合計) 788 千円					
研究開発経費 内 訳	消耗品費	120 千円		購読費	80 千円	
	一般旅費	320 千円		通信費	0 千円	
	諸会費	0 千円		諸手数料	268 千円	

## 2. 研究開発計画

(1) 研究開発の背景及び目的（目標）	
背 景	<p>本件は、令和4年度の研究開発に採択されたことからツールの開発に至り、大学スタディスキル（経済学部スポーツ推薦入試入学者クラス）を中心に、学業と競技の両面における目標設定と具体的な行動、定期的な振り返り（リフレクション）を反復することによって、体育会系サークルに所属する学生（以下、「アスリート学生」という）の学業と競技の両立を支援する有用なツールとして活用してきた。</p> <p>特に、既存のポータルシステム（K'sLife）では機能及びコスト面から実現が困難であったアスリート学生の心理状況（モチベーション）の可視化、自身の設定した目標に基づく現状の振り返り（リフレクション）及び教職員との面談等を踏まえた具体的な行動の可視化、これらの蓄積結果を同一画面及び帳票1枚での出力を可能としたことにより、従前（紙媒体での管理運用）と比較し、学生及び教職員の利便性向上や効率化、さらには面談の質向上に繋がっている。これにより、対象学生の平均修得単位やGPA等の学業成績が向上等の成果も確認されている</p> <p>一方で、学業不振に陥らないための重要な指標となる、「出席率」や「成績」については、日々の出席や修得単位の状況によって変化する情報であることから、面談担当者が都度、紙媒体で確認を行いつつ、学生がシステムに直接入力する形式で運用しているが、対象者数に比例した教職員の負担が増加するという課題を、前回開発時に解消できていなかったことから、面談において有用性の高い指標（出席率や成績など）を本システムにインポート（CSV形式）できる新たな機能の開発を構想した。</p>
目 的 (解決すべき課題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アスリート学生におけるデュアルキャリアの重要性に関する理解促進</li> <li>・学生及び教職員の入力作業の効率化及び負担軽減</li> <li>・面談対象学生の拡大及びポートフォリオ利用率の向上</li> </ul>
達 成 目 標 (目的達成指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学業と競技の両立：学業不振者（1年次終了時の修得単位数10単位以下）：0名</li> <li>・教職員の作業時間削減：20%以上（完全ペーパーレス化）</li> <li>・利用対象学生数目標：50名以上、ポートフォリオの利用：面談対象者全員</li> </ul>
(2) 研究開発による成果（効果）の見通し	
研究開発に至った理由	<p>前回の研究開発では、「学生の利便性向上」に焦点を当て、時間や場所等を選ばず、容易に入力・確認ができることに注力したことで、紙からWEBへの移行によるペーパーレス化や入力負担の軽減など、操作性や利便性の向上に繋がっており、学業成績への良い影響（詳細は「研究開発の成果と期待される効果」に記載）も確認された。このことは、教職員による円滑な面談や支援にも結果的に繋がっている。</p> <p>一方で、これまでの成績や出席率、GPA等の修学状況については、既存のポータルシステム（K'sLife）との連携が図れていないため、教職員は面談時に必要な情報を、システムを横断して確認、または、紙媒体で出力（1週間あたり200枚程度）する必要があり、この効率化や負担軽減が新たな課題となっている。</p> <p>今回の研究開発では、上述の課題を解消することによって、アスリート学生へのICTを活用した指導・支援の完全ペーパーレス化、学生及び教職員の入力や作業の効率化及び負担軽減を図り、より一層の成果を生み出していきたい。なお、現在確認されている成果の詳細については、来年発行の広報誌COMMON（Vol.42）に掲載予定である。</p>

<p>研究開発の成果と期待される効果</p>	<p>1. 具体的な成果（令和4年度研究開発）</p> <p>(1) 対象者（経済学部総合型選抜スポーツ型入学者）の学業成績</p> <p>①1年次前期 平均修得単位数</p> <p>従前) 2018年度：19.6単位（学部平均20.7単位）</p> <p>現在) 2021年度：21.1単位（学部平均19.9単位） <b>差異+1.5単位</b></p> <p>②1年次前期 GPA</p> <p>従前) 2018年度：1.694割（学部平均2.205割）</p> <p>現在) 2021年度：2.519割（学部平均2.554割） <b>差異+0.825割</b></p> <p>(2) アスリート学生を対象とした学業面で役立つ支援に関するアンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員との定期的な面談・アドバイス 38.1%</li> <li>・アスリート学生ポートフォリオの活用（目標設定等） 23.8%</li> </ul> <p>※上述2項目はアンケート結果の上位のみ抽出（N=42）</p> <p>2. 期待される効果</p> <p>本ポートフォリオのカスタマイズによる機能強化は、時間的・人力的要因によってこれまで対象とできなかったアスリート学生への範囲拡大、1人あたりの入力時間や面談時間の効率化、学園中期計画のアクションプランであるペーパーレス化や業務効率化の推進、さらには、学部単位やゼミ単位での本システムの利活用などが期待される。</p>
<p>研究開発成果の還元</p>	<p>学業と競技の両立は、大学スポーツにおける重要な課題であり、本研究開発において確認された成果を、学会や論文等によって広く公表することを通して、本学の認知度向上をはじめ、ICTを活用した学生支援の新たな手法としての参考事例になり得ると思慮する。</p> <p>また、本研究開発の仕組みを活かして、将来的には一般学生への活用も期待される。</p>

<p>(3) 研究開発の方法</p>	
<p>研究開発方法</p>	<p>既に開発した既存のアスリート学生ポートフォリオを基盤として、ポータルシステム（K'sLife）からダウンロード可能な平均出席率及び累積GPAの数値をCSV形式で一括取込みが可能な運用支援システムを開発の上、ポートフォリオの新機能として実装し、画面上に表示させる。</p> <p>開発したシステムは、広くアスリート学生（スポーツ入試入学者やアスリート奨学生などを想定）が積極的に活用するとともに、定期的な面談においてその状況確認及び指導支援を行う。なお、面談はiPadを活用し、完全ペーパーレス化を目指し、効率化を図る。</p> <p>また、アスリート学生における「学業と競技の両立」に対する意識の高揚、ポートフォリオの活用において重要となる「目標設定」については、個人の理解や意識により差が生じる可能性があることから、デュアルキャリアの重要性に関する現状理解（ワークショップやトップアスリートによる講演等を想定）、目標設定ワークショップ（原田メソットの受講）を行い、対象者に一定水準の知識・理解を促す体制を整備する。</p> <p>なお、研究開発期間においては、その成果を広く公表することを念頭に、実践的な取組みを行われている大学の事例収や、開発者や研究者からの意見聴取等を行い、支援方策の一助として成果の向上を図る予定である。</p>

研究開発体制	<p>研究代表者：百瀬 俊哉（学生部長／芸術学部写真・映像メディア学科教授） 全体統括（統括責任者）</p> <p>研究分担者：一ノ瀬 大一（学生部学生係長） アスリートポートフォリオ開発責任者、学生指導・支援責任者、成果測定及び分析責任者</p> <p>研究協力者：植村 浩太郎（教務部職員） 学生指導・支援担当者、ポートフォリオ入力管理担当者、成果測定及び分析担当者</p> <p>研究協力者：武谷 信吾（総合情報基盤センター教育研究係長） アスリートポートフォリオ開発担当者、成果測定及び分析支援者</p>	
研究開発工程	完了時期	具体的な行動計画（内容）
	2023年 4月	学生支援・指導体制の検討及び運用開始
	2023年 5月	アスリートポートフォリオに関する仕様の検討及び調整
	2023年 7月	アスリートポートフォリオの仮運用（検証）
	2023年 8月	アスリートポートフォリオの運用開始
	2023年 9月	出席状況及び修得単位等の状況把握（成果測定）
	2023年 10月	成果の分析に基づくCOMMONの執筆等